

神社仏閣建立の実績を背景にベトナムへ進出 ホーチミンの華嚴寺で技術指導を手掛ける



株式会社 日本伝統建築サンジョウ

2009年11月、有限会社三条工務店から株式会社日本伝統建築サンジョウへ改称、資本金も500万円から3000万円へ増資し、経営体質の強化を進めてきた。この新社名は真言宗醍醐派留孫山修禪寺(山口県下関市)の第43世蓮住住職が名付けたもので、修禪寺の祖師堂を建立した縁が新社名につながっている。

「人との繋がりを大切にしています。まずは人の為の精神でやってきました」と岩岡代表。そうした精神を蓮住住職も認め、現在でも修禪寺からは厚い信頼を受けている。昨年2月にはライオン堂靴店を竣工、木造作りの重厚感溢れる作りとなっているが、このライオン堂は記憶に新しい飯塚商店街の大火災に巻き込まれた店舗である。商店街復興を強く願う岩岡代表が建築依頼を受け、飯塚商店街火災の復興第一号の店舗を完成させた。

「私が子供の頃、筑豊地区は賑やかで活気に満ち溢れていましたが、炭鉱が閉鎖してからは人口減少が進み、人通りも少なくなっています。そして、一昨年の飯塚商店街の大火災では、本当に大変な思いをされた関係者や地元住民の方々がいます。少しでも

この町が活性化し、筑豊全体が元気を取り戻せるように、これから地元にも貢献していきたい」と、店舗棟上式の際には、商店街活性化の想いを込め、盛大な餅まきを披露し、買い物客を中心に賑わいを見せていたという。

**「信頼される技術力」
ホーチミンでも高い評価**

社寺大工として神社仏閣はもとより、病院、銀行、一般住宅、店舗の他、人気のスポットとなった旧伊藤伝右衛門邸の改装工事なども手掛け、実績をあげてきた当社であるが、現在はベトナムへも進出し、長年培ってきた技術を活



ベトナム国内でも最高の権威をもつティックトリクアン老師(左)

ベトナム人は集団を尊重し、戦後の日本を彷彿させる民族性を持つ。岩

岡代表は、技術の習得に取り組み懸命な姿に感銘を受けたという。

ベトナムでは仏教徒が大半を占め



現地のスタッフとともに細部にわたった作業(左) 装飾は柵を直接削り出している(右)

ており、ベトナム最大の都市ホーチミンには900を超える寺院がある。ホーチミンがあるベトナム南部の寺院は一般に構えが大きいものが多く、中にはコンクリートを用いた近代的な建物などもみられるのが特徴だ。当社が技術指導を手掛けたのは、仏教学博士でありホーチミンの仏教協会のトップを務めるティックトリクアン老師が統括する寺院の一つである。日本では華嚴宗の総本山、「奈良の東大寺」に相当する。

現在進行中の内装工事に加え、今後は技術指導の場を庭園に広げる予定である。既に現地での測量調査を終え、イメージも下図の通り仕上がっている。

広がる技術指導の場

成果を非常に高く評価している。

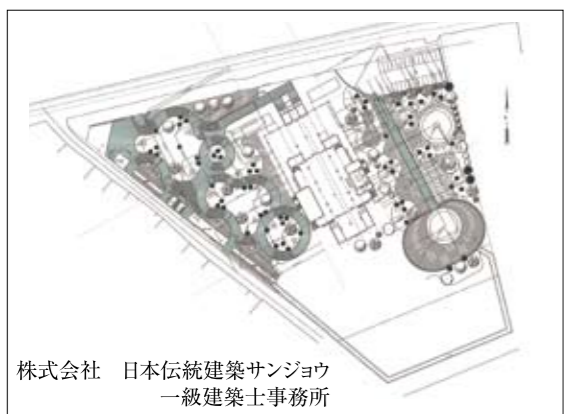
神」が海外にも通用することを実践し、信頼関係を形成した日本伝統建築サンジョウ、技術力を提供する場は確実に広がっていくだろう。



庭園測量



華嚴寺の外装(2010年8月現在)



株式会社 日本伝統建築サンジョウ
一級建築士事務所

庭園設計図